

マーケットの動き（2022年3月14日～3月18日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

ロシアとウクライナの停戦交渉進展への期待感や、FRB（米国連邦準備制度理事会）が金融引き締めを加速するとの思惑から米国金利が上昇した流れを受けて、国内金利も小幅に上昇しました。

クレジット市場は、国債金利の変動幅が大きく、利回り差が高止まりする状況が継続しましたが、買い優勢の展開となり需給環境には改善がみられました。

投資環境見通し（2022年3月）

国内長期金利はレンジ内での動き

国内長期金利は、日銀によるイールドカーブ・コントロールを背景に、当面はレンジ内での動きになるとみています。ただし、主要中央銀行による金融政策正常化の動きがみられ、日銀の将来的な政策変更についても注目されやすく、またウクライナ情勢に対する警戒感もあり、変動率の高まりやすい状況が続くとみています。

	3月18日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.21	0.03	▲0.01	0.17	0.10
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	381.52	▲0.15%	0.25%	▲1.66%	▲1.04%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

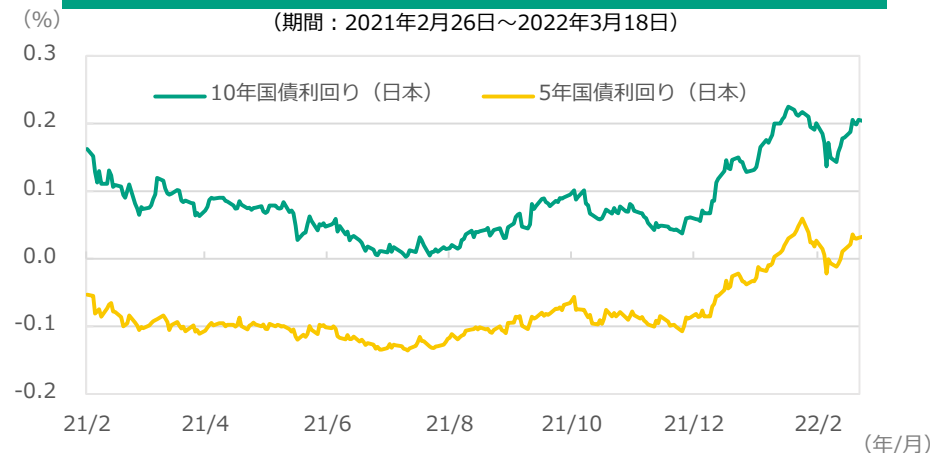
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202203_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

（期間：2021年2月26日～2022年3月18日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2021年2月26日～2022年3月18日）



※2021年2月26日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成